

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200828		
法人名	医療法人 和同会		
事業所名	グループホーム宇部		
自己評価作成日	平成25年5月27日	評価結果市町受理日	平成25年11月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年6月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分で出来ることはして頂く声かけし、それが生活のリズムになるよう支援している。食堂などから桜や紅葉が楽しめたり、くつろげる空間がありゆったりと過ごすことができる。2名の常勤看護師を中心に健康管理を行っている。また、病院が併設しており急変時の対応や日常の受診も連携できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と一緒に近所のスーパーに買い物に行き買ってきた食材や菜園で採れた野菜を使い、栄養士の献立を基に昼食を事業所で作っておられ、利用者は職員と一緒に盛り付けや配膳、片づけ、食器洗いなどをされています。月1回の「献立クラブ」では、季節感や色彩を楽しめる献立を立てられ、職員と利用者全員が参加され、談笑しながら調理をしておられます。からいも餅、ホットケーキ、わらび餅、どら焼き、おはぎ、ぜんざいなどのおやつづくりや梅ジュース、ラッキョウ漬けなどの他、家族会や日帰り旅行で家族と一緒に外食を楽しまれるなど、食事が楽しめるように支援しておられます。事業所では、季節の行事や誕生会、ボランティアと一緒に楽しむ園芸や大正琴、習字クラブ、サクソ演奏の他、ラジオ体操やテレビ視聴、本や週刊誌を読まれたり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、植物への水やり、ゴミだし、校区の文化祭に出展される作品づくりなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくっておられ、利用者が張合いや喜びのある日々を過ごせるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい安心のある快適な生活を提供する」「地域との交流を深める」の理念を共有し対応している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示し、共有している。ケア会議や申し送り時に職員間で話し合っ て、その人らしい生活のリズムができるように理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物やゴミ捨てに行く途中、挨拶や会話をしている。通路の掃除や草取りをして周りの環境を整えている。	校区の文化祭に利用者が作った壁面折り紙や貼り絵を出展し利用者と職員と一緒に見学している。法人の夏祭りに家族の参加もあり、踊りを見たり、ほかの参加者と交流している。事業所の敬老会に院内保育の子供の来訪があり、お遊戯や折り紙、おやつなどで交流する他、事業所に園芸、大正琴、サクソ演奏、習字、フラダンスなどのボランティアの来訪がある。近所のスーパーでの買い物時やゴミ捨てに行った時に知り合いや通りすがりの人と挨拶を交わしている。職員と一緒に病院周辺の通路の草取りをしたり花を植えたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部からの相談、見学がある際に対応している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営会議やケア会議で話し合い改善に取り組んでいる。	管理者が職員に評価の意義を説明し、評価をするための書類を全員に配付して、記入してもらい、運営会議(月1回)やケア会議(月1回)で話し合い、管理者と計画作成担当者がまとめている。自己評価を、日々のケアの振り返りと捉えている。前回の評価結果を受けて、研修の充実を図り、月1回のケア会議時に内部研修に取り組むなど、改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行いサービス向上に取り組んでいる。	2ヶ月に1回開催している。利用状況や行事、活動等の報告をして、防災等についての情報交換を行っている他、消防署職員や地域包括支援センター職員を講師に招き、一コマ講義を行っている。校区社協の委員から地域行事の情報提供を受け、事業所の行事に取り入れたり、家族の意見で年1回ボランティアの協力を得て家族会で日帰り旅行を実施するなど、意見をサービスの向上に活かしている。運営推進会議の取り組みは、年1回家族会に一覧で報告している。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加及び届け出等により連携を図っている。	市担当課とは、運営推進会議出席時の他、電話や直接出向いて、情報交換や申請手続き、事例相談等を行い、助言を受けるなどよい協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は8時から12時半、13時半から17時の間開錠している。危険のある場合の施錠は、入所時説明をし了解を得ている。	身体拘束の弊害について理解した上で、玄関の施錠も含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、勉強会を実施し、日々のケアを振り返り、職員間で注意しあっている。外出したい利用者とは、一緒に出かけるなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネージャーより事例の提示があり、学習の機会を得ている。職員同士防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去数人が成年後見制度を利用した。必要があれば関係機関と連絡を取り活用できるようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の際、受付体制等を説明している。	契約時に苦情や相談の受付体制や行政機関、第三者委員、処理手続きを家族に説明している。玄関に意見箱やハガキを備え付け、面会時にはお茶を出して日頃の様子を伝えるなど、意見を出しやすいよう配慮している。家族からの意見や要望は、運営推進会議出席時や家族会の他、面会時や電話などで聞いている。個室の清潔や利用者の整容についての意見や要望があり改善するなど、日々のケアに反映させているが、運営に反映させるような意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や運営会議で話し合い、反映させている。	月2回のユニット会議で意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は日ごろから職員に声をかけ、意見を聞いている。意見を基に、便座ヒーターや玄関チャイムの設置、掃除用具の購入、職員の希望を配慮した勤務体制をとるなど、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種研修会の参加費の負担など就業環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内外の研修を受ける機会を増やすよう努めている。また、研修希望者には参加できるような勤務を組んでいる。	外部研修は情報を収集して職員に伝え、本人の希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は復命して、資料を閲覧し、共有している。毎月1回の法人研修(ノロウイルスやインフルエンザ等感染症)に参加している。内部研修は、月1回のケア会議を利用して看護師が講師となり、急変時の対応や防災、看護、介護の知識・技術などについて実施し、その日の勤務者が参加している。新人職員は、先輩職員が日常の業務の中で学べるように支援している。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会はあるが、ネットワークや勉強会などはない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを傾聴し寄り添い、不安を軽減するよう努めている。スタッフ間で情報を共有し、同一の対応を心掛けている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と連絡を取りながら関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や料理等、出来るところはやって頂き、出来ないところを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やユニット便り、また必要に応じて近況報告を行い、家族と対応している。日帰り旅行や交流会で家族と過ごせる場を設けている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外で友人と外食したり、葉書等の交流をされている方もいる。継続できるよう支援している。	家族や友人、知人、親戚の人の来訪や、家族や友人への電話の取次ぎや礼状のはがきを出すなどの支援をしている。友人との外食や家族の協力を得て、墓参りや法事に参加し、行きつけの理美容院の利用や温泉に出かけるなど馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもらないよう声かけし、気の合う人同士でくつろいでいる。トラブルに配慮し支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	骨折等で退所した後もリハビリ後再入所できるよう、病院や施設のNSWとの連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を大切にしながら声かけや対応をしている。	アセスメントの活用や利用者との日々の関わりの中でのことばを「生活記録」や「日常生活活動記録」に記録し、色分けをして思いや意向の把握に努めている。申し送り時に話し合い、共有している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約の際情報収集している。入所後も家族や本人から随時情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の出来事や心身状況などを申し送り、記録することで、統一した対応を行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所1ヶ月で初期カンファレンスを行い(必要時には随時)毎月評価、6ヶ月に1回定期カンファレンスを行いケアプランの見直しを行っている。	利用者を担当する職員と計画作成担当者が中心となって、本人や家族の思いや意向、主治医や看護師等関係者の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。月1回のケア会議でカンファレンスを行い、1ヶ月毎のモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しを行っている。状態に変化があればその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の業務日誌に記録している。何かあれば申し送り表に記録を行い職員間で共有し、1ヶ月評価に活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応しその都度取り組んでいる。散髪ボランティアが入っているが、さらにおしゃれを楽しみたい方は移動美容室を利用している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園芸、サックス、大正毎、習字、傾聴の定期のボランティア及びダンスや踊り等の随時のボランティアの方に来て頂き生活が豊かになるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院に定期受診しているが、必要に応じて他病院の受診に付き添っている。その都度家族に報告や相談をしながら適切な医療が受けられるようにしている。	協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回の定期受診や訪問歯科診療、皮膚科等の専門医への受診支援など、協力医療機関と連携し、適切な医療が受けられるように支援している。受診結果は家族に報告し、服薬管理も含めて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が健康管理を行い、異常あれば早期受診につなげている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人にとって安楽で安心できる方法を、家族、本人、担当医、職員と話し合い方針を決めている。	看取りに関する指針があり、契約時に事業所でできることを家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から家族や本人の要望を聞き、主治医、看護師等と話し合い、方針を共有して、医療機関や関係機関への移設も含めて、本人、家族の思いに添った支援ができるようチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人ひとりの状況に応じて事故防止に取り組んでいる。急変時の初期対応の確認等を行っている。	事故・ヒヤリハット報告書に記録し、改善策を申し送りで共有している。法人のリスクマネージャーに報告し、「医療安全委員会」での助言を得て、ケア会議で検討して介護計画に反映し、一人ひとりの事故防止に努めている。ケア会議の時に行なう内部研修で応急手当（誤嚥、急変時）や夜間の通報訓練を実施しているが、実践力を身につけているとはいえない。	・実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	病院全体の防火訓練に参加している。GHでも避難訓練とマニュアルの確認を行っている。	年2回、昼夜の火災を想定した法人の防災訓練（避難、誘導、通報、消火器の使い方等）に職員が参加している。事業所独自に避難経路や消火器の位置の確認、通報機器等の使い方の訓練をしている。法人全体での災害に対する協力体制は築いているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとり声かけの仕方が違うことを認識し、職員が同じ対応が出来るようにしている。	法人の接遇研修で学び、人格の尊重とプライバシーの確保について全職員が理解して、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない対応をしている。個人除法の保管や守秘義務の順守について徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るよう声かけし対応している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別の生活リズムを把握し、本人のペースに合わせて対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服を一緒に選んだり、重ね着等チェックしさりげなく対応している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備や片付けを行っている。また、職員も一緒に食べることで食事を楽しんでいる。	朝夕は法人の配食を利用し、昼食は利用者と一緒に買い物に行って買った食材や事業所の菜園で採れた野菜を利用して事業所で調理している。利用者は職員と一緒に盛り付けや配膳、後片付け、食器洗いなどを行っている。利用者と職員と会話を弾ませながら食事を楽しんでいる。月1回、「献立クラブ」を開催し、季節感や色彩を楽しめるような献立で、職員2名と利用者全員が参加し、談笑しながら食事づくりを楽しんでいる。おやつづくり(からいも餅、わらび餅、利休饅頭、ドラ焼き、おはぎ、ぜんざい、ホットケーキ、クレープなど)や梅ジュース、ラッキョウ漬などを楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立でバランスのとれた食事を提供している。本人の状態に応じて刻みにしたり栄養補助食品を付加している。食事・水分がとれているか、摂取表を記載し確認している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの見守り、介助を行い、夜間は義歯を預かり洗浄管理している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が出来るよう援助している。	一人ひとりの個別の排泄チェック表を活用し、パターンを把握して、プライバシーに配慮した声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のコントロールを行い、最終便の確認ができるようチェックを行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週4回の入浴を行っている。曜日は決まっているが、ゆっくり楽しんで入れるよう支援している。	週4回(日、月、水、金)13時30分から15時まで、本人の希望により入浴できる。利用者の希望を聞きながら、無理強いせず、ゆったりと入浴できるよう支援している。入浴したくない人には、声かけの工夫をし、体調や本人の希望で入浴できない場合は、シャワー浴や足浴、清拭など、一人ひとりの状態に応じた入浴支援を行っている。季節により、柚子や入浴剤を入れて入浴を楽しむ支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムを把握し入床の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理のファイルを作っており、薬の用法や副作用が分かるようにしている。また、薬の増減や変更があった場合は申し送り、体調の変化の確認に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理、生け花等得意な方に行ってもらい、持てる力を発揮し楽しめるよう支援している。	テレビ視聴、本や週刊誌、新聞を読む、ちぎり絵、折り紙、ぬり絵、ちぎり絵、トランプ、ラジオ体操、季節の行事(初詣、豆まき、お雛様、夏祭り、敬老会での保育園児との交流)や誕生会、ボランティア(大正琴、サクソ演奏、フラダンス、習字クラブ、傾聴など)との交流、生け花、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、花の水やり、草取り、道の清掃、ゴミ出し、月1回の献立クラブ、食事の準備、後片付け、野菜づくり、校区の文化祭に出展する作品づくり(紙細工による壁面画)など活躍できる場面を多くつくり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に行ったり、ドライブに出かけている。	近隣の散歩やスーパーでの買物、ゴミ出し、ドライブ(阿知須自然公園、藤尾山公園、常盤公園、飛行場、北向き地蔵等)や季節の花見(梅、桜、つつじ、菖蒲)、家族会の日帰り旅行(年1回、花の海とイタリアンレストラン)、校区の文化祭の見学等に出かけている。家族の協力を得ての外出や外食、墓参り、温泉に出かけるなど、一人ひとりの希望の応じて戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望によりお金を所持している方もいる。必要に応じ支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時家族に電話したり、贈り物等あった時にお礼の電話をして頂いている。必要に応じ支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ベランダ、庭等に季節の花を植えたり生けている。食堂から桜や紅葉等季節の移ろいを楽しめる。季節に合った壁面制作や展示を行っている。	リビングは広く、明るく、ガラス窓から見える風景は四季の移ろいを感じることができる。ベランダのプランタンや室内に飾ってある生花、利用者の作品である季節の壁面飾りに季節感が感じることができる。キッチンからの調理の音や匂いは生活感を感じさせ家庭的な雰囲気がある。2つのユニットを回廊式につないでいる広い廊下には、手すりが設置してあり、テレビや読書を楽しむコーナーがあるなど、利用者が思い思いの場所でゆったりと過ごせるようになっている。トイレや浴室も清潔に整頓され、温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファー、テレビ室、食堂等、思い思いの場でゆっくり過ごせている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、使い慣れた物や好みの物を持参して頂き、生活しやすいよう配置している。	ベットやテレビ、本、小物整理棚、椅子などを持ち込み、利用者の作品や家族写真、カレンダーなどを飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ等が分かるよう目印をつけたりしている。食堂のテーブルの配置も状況に応じ変えている。		

2. 目標達成計画

事業所名: グループホーム宇部

作成日: 平成 25年 11月 11日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	研修を受ける機会が少ない	GH内の研修を充実させ、研修を通し職員間で共有する	GHの研修年間計画を立て 研修の充実を図る。 また、研修を通して職員間で共有する	2年
2	24	利用者の方がどのように暮らしたいのか、思いや意向の記録が不十分である	利用者の思いや言葉を記録しケアプランにつなげていく	ケア会議毎に理念を確認する。 記録の仕方を改善していく	1年
3	35	応急手当や初期対応などの定期的な訓練が不十分である	応急手当や初期対応の実践力を身につける	年間計画に取り入れ、NSを中心に取り組む	2年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。